

白井市のコケ植物

古木 達郎

要旨：白井市に生育するコケ植物を調査し、セン類21科47属75種、タイ類16科18属30種、ツノゴケ類2科3属3種、合計39科68属108種を確認した。これらはすべて白井市から初めての記録である。このうち、環境省レッドリストにおいて準絶滅危惧種に選定されている種としてコウライイチョウゴケ、ウキゴケ、イチョウウキゴケの3種を確認した。また、下総台地新産としてケヒツジゴケを確認した。

1. はじめに

ここで扱うコケ植物とは、スギゴケやゼニゴケに代表される植物で、専門的には蘚苔類と呼ばれている仲間である。これまで、コケ植物は千葉県から約400種が知られている(古木 2002)。その報告のほとんどは房総丘陵から採集された標本に基づいている。下総台地では、千葉市と佐倉市においてコケ植物の現況調査が行われたが(須賀ほか 1996, 古木 1999, 古木 2002)、その他の地域では断片的な調査しか行われていない。特に、千葉県北部や利根川沿いの地域におけるコケ植物についてはほとんど報告がない。白井市のコケ植物に関する報告も皆無である。従って、今回報告するコケ植物はすべて白井市から初めての記録となり、今回の調査は千葉県北部のコケ植物を知る上で、非常に意義深い。

コケ植物は、土上ばかりか岩や樹木の樹幹にも生育し、これら生育基物の違いはコケ植物の生育にとって大きな要因の一つである。また、立地の違いもコケ植物の生育に大きな影響を与え、裸地や水田、畑、森林などによって、生育しているコケ植物が異なっていた。

2. 目的

白井市に生育するコケ植物の目録を作成することを目的とする。また、生育立地の違いなど生育環境の違いによるコケ植物の生育現況を探る。その過程において、市民調査員の育成をも目指す。市民調査員の育成においては、一般的、入門的なコケ植物に着目した調査に重点を置き、野外において肉眼で識別できるコケ植物の見分け方を修得することを目指す。

3. 方法

目的に示した観点から17年度は、学校や社寺、水田など身近な場所に生育するコケ植物を主に調べた。中でも土上に生育するコケ植物に重点を置いた。廃校となった小学校や市内の比較的大きな神社や寺などを主に調べた。また、市内の大きな面積を占めるナシ園の調査を予備的に行った。18年度は、17年度と同様な観点に加え、森林や人家、道路脇などを調べた。調査において、採集は最小限に止め、1種につき最低1点の標本作製することとした。そのため、目撃情報も重視した。

採集された標本は、実験室に持ち帰り、生物顕微鏡を使い調べた。これらすべての標本は千葉県立中央博物館に収蔵した。

4. 確認されたコケ植物リスト

今回の調査において、約 300 点の標本を採集し、その同定結果と現地での目撃情報とを併せて、コケ植物はセン類 21 科 47 属 75 種、タイ類 16 科 18 属 30 種、ツノゴケ類 2 科 3 属 3 種、合計 39 科 68 属 108 種を確認した。分類体系と学名は、基本的に岩月ほか (2001) に従ったが、一部の学名については最新の学術情報に従った。リストは、セン類、タイ類、ツノゴケ類毎に列挙した。

なお、証拠標本の記述のなかに、地名の後にある名前はコケの確認者を示し、そのあとの no.、または nos. の後の数字は、採集番号である。

セン綱 スギゴケ科

Atrichum rhytosthyllum (Muell. Hal.) Paris ヒメタチゴケ

裸地に大きな群落を作っている。

証拠標本：武西，古木 no. 21563.

Atrichum undulatum (Hedw.) P. Beauv. ナミガタタチゴケ (タチゴケ)

学校や公園などの植え込みの中、道路沿いの土手などにふつうに生育している。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20940；白井市清戸，福祉センター付近，古木 no. 20986；

神々廻 弁天池，古木 no. 21569.

Pogonatum inflexum (Lindb.) Sande Lac. コスギゴケ

農耕地の脇の土手や森林の中を通る道路脇の土手に稀に生育している。学校の教科書にセン類の代表として掲載されていたコケ植物であり、是非とも市民に認識してもらいたい種である。

証拠標本：根，大野農園，古木 no. 21021；市復，市役所付近，古木 no. 20980；神々廻，弁天池，

古木 no. 21568；谷田，古木 no. 21611.

Pogonatum neesii (Muell. Hal.) Dozy ヒメスギゴケ

背丈の低い草原において、草本の生育密度が低い場所にふつうに見られる。

証拠標本：神々廻，古木 no. 19854；武西，古木 nos. 21535, 21560.

Pogonatum spinulosum Mitt. ハミズゴケ

森林の中を通る道路脇の土手に稀に生育している。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20939.

ハウオウゴケ科

Fissidens bryoides Hedw. エゾハウオウゴケ

森林内の土上や小石上に稀に生育していた。

証拠標本：折立，古木 nos. 21653, 21658.

Fissidens dubius P. Beauv. トサカハウオウゴケ

森林内の土手や神社の境内にある石碑や墓石の台座に見られることが多い。

証拠標本：清戸，宗像神社，古木 no. 21000；武西，古木 no. 21535；谷田，飯綱権現，古木 no. 21606；

名内，東光院，古木 no. 21660.

Fissidens linearis Brid. var. *obscurirete* (Broth. & Paris) I. G. Stone ジングウハウオウゴケ

植え込みの裸地に生育していた。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 21005.

Fissidens taxifolius Hedw. キャラボクゴケ

森林内の土上に小さな群落を作っていた。

証拠標本：復，仏法寺，古木 no. 21644.

Fissidens teysmanianum Dozy & Molk. コホウオウゴケ

土上では，最もふつうに生育しているコケ植物のひとつである。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20936；清戸，宗像神社，古木 no. 20999；根，長楽寺，古木 no. 21012；平塚，小森下，古木 no. 21026；武西，古木 no. 21550；谷田，飯綱権現，古木 no. 21592.

キンシゴケ科

Ceratodon purpureus (Hedw.) Brid. ヤノウエノアカゴケ

和名の由来は，屋根の上に生える赤い苔という意味である。ここで言う屋根とは茅葺き屋根であるが，このような屋根そのものが少なくなってしまった。しかし，よく日のあたる裸地にも生育することが知られており，白井市では神社の境内の地面に生育していた。

証拠標本：清戸，宗像神社，古木 no. 21003；復，仏法寺，古木 no. 21647.

シツボゴケ科

Dicranella heteromalla (Hedw.) Schimp. ススキゴケ

森林脇の土手に生育していた。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21045；谷田，飯綱権現，古木 no. 21602；谷田，飯綱権現，古木 no. 21602；復，仏法寺，古木 no. 21646.

Dicranella varia (Hedw.) Schimp. ナガスジススキゴケ

良く日の当たる裸地に大きな群落を作っていた。裸地では最も普通に見られる小型なセン綱のひとつであろう。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20996；根，大野農園，古木 no. 21020.

Dicranodontium denudatum (Brid.) Willams ユミゴケ

スギの樹幹に着生していた。

証拠標本；武西，古木 no. 21558.

Trematodon longicollis Michx. ユミダイゴケ

道路脇の裸地に小さな群落を作っていた。独特な孢子体を形成するが，それが成熟する早春だけしか識別が難しいため，市内に広く分布していると思われるが，目撃された箇所は少ない。

証拠標本：復，古木 no. 21624；復，八幡神社，古木 no. 21625.

シラガゴケ科

Leucobryum juniperoideum (Brid.) Muell. Hal. ホソバオキナゴケ

園芸では，「山苔」とう名で知っているコケ植物である。野外では一般に杉林に多く生育していることが多く，白井市においてもスギの樹幹に広く生育していた。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20982；神々廻，弁天池，古木 no. 21574.

センボンゴケ科

Barbula unguiculata Hedw. ネジクチゴケ

裸地に黄緑色の群落を作っていた。裸地には最もふつうなコケ植物のひとつである。

証拠標本：復，古木 no. 21617.

Didymodon vinearis (Brid.) R. H. Zander チュウゴクネジクチゴケ

道路脇のコンクリート上や農園、畑の裸地に生育していた。市街地では最もふつうに見られるコケ植物の一つである。

証拠標本：根，大野農園，古木 no. 21019；谷田，古木 no. 21615.

Hyophila propaglifera Broth. ハマキゴケ

やや古くなったコンクリート上や湿ったアスファルト上，岩上，裸地に広く生育している。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20993；平塚，小森下，古木 no. 21037；武西，古木 no. 21548；復，仏法寺，古木 nos. 21637, 21648.

Leptopascum leptophyllum (Muell. Hal.) J. Guerra & M. J. Cano ナガバヒョウタンゴケ

庭や畑の湿った裸地に生育していた。人家付近に多い。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20946.

Tortula mularis Hedw. ヘラハネジレゴケ

水路のコンクリート護岸に生育していた。やや古くなったコンクリート上に生育していると思われる。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21036.

Weissia crispa (Hedw.) Mitt. ツチノウエノタマゴケ

畑の周りの裸地に多く，斑点状に生育している。

証拠標本：谷田，古木 no. 21614.

Weissia controversa Hedw. ツチノウエノコゴケ

裸地に黄緑色の群落を作っていた。裸地には最もふつうなコケ植物の一つであり，市内全域に生育している。

証拠標本：神々廻，古木 no. 19855；清戸，福祉センター付近，古木 no. 20998；武西，古木 no. 21561.

Weissia planifolia Dixon ツチノウエノカタゴケ

ツチノウエノコゴケと同じように裸地に生育するが，森林脇などの土手に多い。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20994；根，八幡神社，古木 no. 21016；谷田，飯綱権現，古木 no. 21594；復，古木 no. 21619.

ギボウシゴケ科

Grimmia pilifera P. Beauv. ケギボウシゴケ

神社や寺などにおいて，境内に置かれた火成岩や石碑の火成岩上に斑点状に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 nos. 21586, 21587；名内，東光院，古木 no. 21661；復，仏法寺，古木 no. 21631.

Ptychomitrium linearifolium Reim. ナガバチヂレゴケ

神社や寺などにおいて，境内に置かれた火成岩上に斑点状に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21589；復，仏法寺，古木 no. 21632.

Ptychomitrium sinense (Mitt.) A. Jaeger チヂレゴケ

本種もケギボウシゴケやナガバチヂレゴケなど本科の他種と同様な生態をしていた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 nos. 21584, 21585；復，仏法寺，古木 no. 21634.

Racomitrium barbulooides Cardot コバノスナゴケ

神社や寺などにおいて，境内に置かれた火成岩や石碑の火成岩上に斑点状に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21683；名内，東光院，古木 no. 21659.

Racomitrium japonicum Dozy & Molk. エゾスナゴケ

神社や寺などにおいて，境内に置かれた火成岩や石碑の火成岩上に斑点状に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21581.

Racomitrium lanuginosum (Hedw.) Brid. シモフリゴケ

神社において人工的に組まれた火成岩上に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21582.

Schistidium liliputanum (Muell. Hal.) Deguchi. コメバギボウシゴケ

神社において人工的に組まれた火成岩上に斑点状に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21588

ヒジキゴケ科

Hedwigia ciliata (Hedw.) P. Beauv. ヒジキゴケ

寺の境内において火成岩上に生育していた。

証拠標本：復，仏法寺，古木 no. 21633.

ヒナノハイゴケ科

Gliphomitrium humillimum (Mitt.) Cardot サヤゴケ

ナシやウメなどの樹幹や社寺の境内の岩上に生育していた。樹幹に着生するコケ植物の中では市内で最もふつうに見られる。

証拠標本：根，長楽寺，古木 no. 21007；武西，古木 no. 21540；谷田，飯綱権現，古木 no. 21590；復，仏法寺，古木 no. 21635.

Venturiela sinensis (Vent.) Muell. Hal. ヒナノハイゴケ

人家の庭の樹幹に着生していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21651.

ヒョウタンゴケ科

Funaria hygrometrica Hedw. ヒョウタンゴケ

農地の道路脇の裸地に生育していた。胞子体がない季節では野外で識別することが難しく，市内の分布域はよく分からない。しかし，生育環境から推測すると，市内全域に生えている可能性が高い。

証拠標本：名内，古木 no. 21618

Physcomitrium eurystomum Sendtn. ヒロクチゴケ

水田脇の湿った土上に生育していた。アゼゴケと共に水田や畑に多いコケ植物のひとつとして知られている。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20934；復，古木 no. 21618.

Physcomitrium sphaericum (Ludw.) Fuernr. アゼゴケ

秋に水を落とし，干上がった水田に生育していた。和名のとおり，水田のあぜや畑に多いコケ植物であり，農耕地に広く分布している。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20949.

チョウチンゴケ科

Plagiomnium acutum (Lindb.) T. J. Kop. コツボゴケ

社寺の境内や森林内の湿った小路に生育していた。

証拠標本：白井，山口 no. 7021301；谷田，飯綱権現，古木 no. 21604.

Plagiomnium maximoviczii (Lindb.) T. J. Kop. ツルチョウチンゴケ

森林内の湿った小路に生育していた。

証拠標本：神々廻，弁天池，古木 no. 21572；谷田，飯綱権現，古木 no. 21605.

Trachysystis microphylla (Dozy & Molk.) Lindb. コバノチョウチンゴケ

人工的な岩組の火成岩や石碑の基部において土が付着していた部分に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21596.

ハリガネゴケ科

Brachymenium exile (Dozy & Molk.) Bosch & Sande Lac. ホソウリゴケ

道路脇のコンクリートやアスファルト上にギンゴケと混生していた。

証拠標本：復，古木 no. 21623，復，八幡神社，古木 no. 21626.

Bryum argenteum Hedw. ギンゴケ

市街地を代表するコケ植物であり，人家の庭やコンクリート上や道路脇にも生え，市内にもっとも多く生育しているコケ植物のひとつである。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20987；武西，古木 no. 21541；復，古木 no. 21621.

Pohlia prolifera (Kindb.) Lindb. ex Arn. ホソエヘチマゴケ

寺の境内の裸地に生育していた。

証拠標本：根，長楽寺，古木 no. 21006；復，古木 no. 21627.

Rosulabryum capillare (Hedw.) J.T. Spence ハリガネゴケ

庭の裸地やコンクリート上、人工岩組上に生育していた。市内にもっとも多く生育しているコケ植物のひとつである。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20988；武西，古木 no. 21542.

タチヒダゴケ科

Orthotrichum consobrinum Cardot タチダゴケ

クリやウメ、校庭に植えられた樹木の樹幹に生育していた。

証拠標本：武西，古木 no. 21546.

ウスグロゴケ科

Leskeella pusilla (Mitt.) Nog. ヒメウスグロゴケ

ナシの樹幹に着生していた。珍しいコケ植物であり，千葉県内では千葉市の1ヶ所から知られているに過ぎない。

証拠標本：根，大野農園，古木 no. 21024；谷田，古木 no. 21612.

Okamuraea brachydictyon (Cardot) Nog. ホソオカムラゴケ

ナシの樹幹に着生していた。

証拠標本：根，大野農園，古木 no. 21023.

シノブゴケ科

Haplocladium angustifolium (Hampe & Muell. Hal.) Broth. ノミハニワゴケ

水田用水路のコンクリート護岸上に生えていた。ほふくするコケ植物としてはコンクリート上ばかりでなく，土上や樹幹にも生育し，市内全域において最もふつうに見られるコケ植物である。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21030；武西，古木 no. 21538.

Haplocladium mirophyllum (Hedw.) Broth. コメバキヌゴケ

水田脇の土上に生育していた。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21039.

Haplohymenium pseudo-triste (Muell. Hal.) Broth. コバノイトゴケ

ナンやウメの樹幹などに着生していた。樹幹に着生するコケ植物としては一般的な種として知られる。

証拠標本：根，長楽寺，古木 no. 21008；平塚，小森下，古木 no. 21044.

Herpetineuron toccoa (Sull. & Loeske) Cardot ラセンゴケ

寺の境内において、火成岩上に生育していた。白井市では火成岩上で確認されたが、樹幹などに着生することが知られており、市内の他地域にも生えている可能性が高い。

証拠標本：復，仏法寺，古木 no. 21641.

Thuidium kanedae Sakurai トヤマシブゴケ

森林や水田脇土上に生育していた。

証拠標本：武西，古木 no. 21555；谷田，飯綱権現，岩本 no. 7022601.

ヤナギゴケ科

Leptodictyum riparium (Hedw.) Warnst. ヤナギゴケ

用排水路や寺の境内の人工庭園において、水中から水際のコングリート上に生育していた。

証拠標本：平塚 小森下，古木 no. 21031；復，仏法寺，古木 nos. 21629, 21630, 21642.

アオギヌゴケ科

Brachythecium buchananii (Hook.) A. Jaeger ナガヒツジゴケ

庭の裸地に群落を作っていた。ほふくするコケ植物としては一般的な種である。

証拠標本：白井市清戸，福祉センター付近，古木 no. 20991；根，長楽寺，古木 no. 21013；神々廻 弁天池，古木 no. 21565；復，古木 no. 21622.

Brachythecium helminthocladum Broth. ヒモヒツジゴケ

水田脇の湿った土上に生育していた。このような場所に限られる。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21027.

Brachythecium plumosum (Hedw.) Bruch & Schimp. ハネヒツジゴケ

庭や水田脇の湿った土に生育していた。裸地にはふつうに見られるコケ植物である。

証拠標本：白井市清戸，福祉センター付近，古木 no. 20997；平塚，小森下，古木 nos. 21038, 21048；谷田 飯綱神社，古木 no. 21597.

Brachythecium populeum (Hedw.) Bruch & Schimp. アオギヌゴケ

石碑の基礎をなす凝灰岩やコンクリート上に生育していた。

証拠標本：谷田 飯綱神社，古木 no. 21591；復，古木 no. 21620.

Brachythecium garovaglioides Muell. Hal. ケヒツジゴケ

水田脇の湿った土に生えていた。下総台地からは初めての記録となる。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21032.

Bryhnia novae-angliae (Sull. & Lesq.) Grout ヤノネゴケ

水田脇の湿った土上に生育していた。千葉県内では、房総丘陵に多い種であり、下総台地では珍しい。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20933；平塚，小森下；古木 no. 21022；武西，古木 no. 21557.

Oxyrrhynchium hians (Hedw.) Broth. ツクシナギゴケモドキ

水田脇の湿った土上に生育していた。

証拠標本：神々廻，弁天池，古木 no. 21570；復，仏法寺，古木 no. 21643.

Oxyrrhynchium savatieri (Besch.) Broth. ツクシナギゴケ

庭や神社の境内の裸地で樹木が作る木陰に大きな群落を作っていた。このような場所では最もふつうであろう。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20990；根，八幡神社，古木 no. 21015；武西，古木 nos. 21547, 21553.

Rhynchostegium contractum Cardot サイシュウテングゴケ

水田脇の湿った土上に生育していた。

証拠標本：武西，古木 no. 21552；神々廻，弁天池，古木 no. 21564.

Rhynchostegium pallidifolium (Mitt.) A. Jaeger コカヤゴケ

森林の縁の湿った土に生育していた。

証拠標本：平塚，小森下，古木 nos. 21028, 21034, 21040；武西，古木 no. 21544；神々廻，弁天池，古木 no. 21567.

サナダゴケ科

Plagiothecium europhyllum (Cardot et Thér.) Z. Iwats. ジョウロウイチイゴケ

杉林の林床の倒木上に生育していた。市街地には生育していない。

証拠標本：神々廻，弁天池，古木 no. 21573.

ツヤゴケ科

Entodon challengerii (Paris) Cardot ヒロハツヤゴケ

ナシの樹幹やコンクリート上などに着生していた。市内全域において樹幹やコンクリート上に最もふつうに生育している。

証拠標本：市根，大野農園，古木 no. 21025；武西，古木 no. 21536；復，仏法寺，古木 no. 21645.

Entodon sullivantii (Muel. Hal.) Lindb. ホソミツヤゴケ

神社の石垣に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21609.

ナガハシゴケ科

Brotherella henonii M. Fleisch. カガミゴケ

スギの樹幹基部に着生していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21654；神々廻 弁天池，古木 no. 21571.

Pylaisiadelphina yokohamae (Broth.) W. R. Buck ケカガミゴケ

ウメの樹幹に着生していた。樹幹着生のコケ植物の中では最も大気汚染に対して強いと思われるコケ植物のひとつである。

証拠標本：清戸，宗像神社，古木 no. 21001；根，長楽寺，古木 no. 21014；平塚，小森下，古木 no. 21042；神々廻，弁天池，古木 no. 21579.

Senatophyllum subhumile (Muell. Hal.) M. Fleisch. ナガハシゴケ

スギの倒木に生育していた，大気汚染にあまり強くないコケ植物であり，市街地には少ないであろう。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20985；平塚，小森下，古木 no. 21049；武西，古木 nos. 21537, 21549；神々廻，弁天池，古木 no. 21576.

ハイゴケ科

Hypnum plumaeforme Wilson ハイゴケ

ほふくするコケ植物の代表として知られる。芝生の中に生えていた。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20992；武西，古木 no. 21545 谷田，飯綱権現，古木 no. 21608.

Isopterygium minutirameum (Muell. Hal.) A. Jaeger シロハイゴケ

スギ林において，スギの倒木上に生育していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21655.

Pseudotaxiphyllum pohliaecarpum (Sull. & Lesq.) Z. Iwats. アカイチイゴケ

森林の中を通る道路脇や森林の縁の土手に生育していた。ふつうに見られる。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20938；清戸，福祉センター付近，古木 no. 20981；復，仏法寺，古木 no. 21628.

Taxiphyllum alternans (Cardot) Z. Iwat. コウライイチゴケ

水田脇の湿った土上に生育していた。環境省のレッドリストにおいて準絶滅危惧種に指定されている。

証拠標本：平塚，小森下，古木 nos. 21029, 21033, 21035；神々廻，弁天池，古木 no. 21566.

Taxiphyllum taxirameum (Mitt.) M. Fleisch. キャラハゴケ

森林脇の土手に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21599.

Vesicularia flaccida (Sull. & Lesq.) Z. Iwats. ヨコスカイチイゴケ

スギ林において，スギの倒木に生育していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21656.

タイ綱

ツキヌキゴケ科

Calypogeia arguta Mees & Mont. チャボハラゴケモドキ

森林の中を通る道路脇の土手に生育していた。土手に生えるタイ類としてはふつうであろう。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20937；根，長楽寺，古木 no. 21011；武西，古木 no. 21539.

ヤバネゴケ科

Cephalozia otaruensis Steph. オタルヤバネゴケ

神社の石碑基部の凝灰岩上に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21600.

ツボミゴケ科

Jungermannia truncata Nees ツクシツボミゴケ

湿った土に生育していた。土に生育する茎葉体のタイ類としては一般的な種として知られる。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20995.

Jungermannia subulata A. Evans ツツソロイゴケ

神社において湿った石垣に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21595.

ヒシヤクゴケ科

Scapania stephanii Muell. Frib. チャボヒシヤクゴケ

神社の石碑基部の凝灰岩上に生育していた。

証拠標本：谷田，飯綱権現，古木 no. 21603

ウロコゴケ科

Lophocolea minor Nees ヒメトサカゴケ

スギの樹幹や倒木に生育していた。やや湿った生育基物を好むタイ類であり、市街地では少ないと思われる。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20984；平塚，小森下，古木 no. 21046；武西，古木 no. 21543。

ヤスデゴケ科

Frullania muscicola Steph. カラヤスデゴケ

切られたナシの樹幹に着生していた。

証拠標本：谷田，古木 no. 21610。

Frullania parvistipula Steph. ヒメアカヤスデゴケ

寺のエゴノキの樹幹に着生していた。

証拠標本：根，長楽寺，古木 no. 21009。

クサリゴケ科

Cololejeunea japonica (Schiffn.) Mizut. ヤマトヨウジョウゴケ

樹幹に着生するタイ類としては、最もふつうに生育していた。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21047；神々廻，弁天池，古木 no. 21577；谷田，飯綱権現，古木 no. 21601。

Lejeunea japonica Mitt. ヤマトコミミゴケ

森林の縁に生える樹木の樹幹や社寺の境内において人工的な岩組にやや大きな群落を作っていた。市街地では見られない。

証拠標本：平塚，小森下，古木 no. 21041；谷田，飯綱権現，古木 no. 21598。

Lejeunea ulicina (Taylor) Gottsche et al. コクサリゴケ

寺の境内のウメの樹幹にごく僅かに着生していた。野外で確認するのが困難なほど小さい。

証拠標本：根，長楽寺，古木 no. 21010。

ミズゼニゴケ科

Pellia endiviifolia (Dics.) Dumort. ホソバミズゼニゴケ

庭において建物の北側の湿った裸地に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20945；武西，古木 no. 21559。

スジゴケ科

Riccardia multifida (L.) Gray subsp. *decrescens* (Steph.) Furuki クシノハスジゴケ

湧水地で確認された。これまで下総台地では谷津でのみ生育が確認された。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20983。

フタマタゴケ科

Metzgeria lindbergii Schiffn. ヤマトフタマタゴケ

様々な樹木の樹幹に着生していた。市街地に生育することは珍しいコケ植物として知られている。
証拠標本：清戸，宗像神社，古木 no. 21002；平塚小森下，古木 no. 21043；清戸福祉センター付近，長谷川 no. 200501；神々廻，弁天池，古木 no. 21578.

ジャゴケ科

Conocephalum conicum (L.) Dumort. ジャゴケ

農耕地の裸地に生育していた。

証拠標本：根，大野農園，古木 no. 21018；武西，古木 no. 21556.

Conocephalum japonicum (Thunb.) Grolle ヒメジャゴケ

庭の裸地に生育していた。新しい裸地に多いことが知られており，今後も市街地で見つかるであろう。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20943.

アズマゼニゴケ科

Dumortiera hirsuta (Sw.) Nees ケゼニゴケ

湿った森林内の裸地に生育していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21652.

ミカツキゼニゴケ科

Lunularia cruciata (L.) Lindb. ミカツキゼニゴケ

社寺や人家の庭において裸地に生育していた。コケ植物としては非常に珍しい外国からの外来種として知られており，かつては大都市圏や大きな街道沿いに限られていた。市内では広い範囲に生育している可能性が高い。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20942；復，仏法寺，古木 no. 21640.

ジンガサゴケ科

Mannia fragrans (Barbis) Frye & Clark ミヤコゼニゴケ

社寺の境内の裸地に生育していた。本種は元来，荒川添いの地域に限られているとされていたが，植木の圃場などにも生育しており，植木の運搬に伴い，分布域を広げたとされている。白井市にも植木と共に運ばれて来た可能性が高い。

証拠標本：復，仏法寺，古木 no. 21636.

Rebouila hemisphaerica (L.) Raddi ssp. *orientalis* R. M. Schust.

人家の庭や道端，社寺の境内の裸地に生育していた。

証拠標本：折立，古木 no. 21657；復，仏法寺，古木 no. 21639.

ゼニゴケ科

Marchantia paleacea Bertol. subsp. *diptera* (Nees & Mont.) Inoue フタバネゼニゴケ

庭や道路脇，裸地に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20944；神々廻，弁天池，古木 no. 21580.

Marchantia polyporpha L. ゼニゴケ

水田脇の土や庭に生育していた。教科書ではタイ類の代表として知られているコケ植物である。
証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20935；市復，市役所付近，古木 no. 21004；谷田，古木 no. 21613.

ウキゴケ科

Riccia fluitans L. ウキゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 no. 20947；武西，古木 no. 21554.

Riccia glauca L. ハタケゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20929；折立，古木 no. 21650；復，仏法寺，古木 no. 21638.

Riccia huebeneriana Lindenb. コハタケゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20928.

Riccia lamellosa Raddi ウロコハタケゴケ

道路脇の裸地に生育していた。

証拠標本：名内，東光院，古木 no. 21662.

Riccia miyakeana Schiffn. ミヤケハタケゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校，古木 nos. 20941, 20948.

Riccia nipponica Shimizu & S.Hatt. カンハタケゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20930.

Ricciocarpos natans (L.) Corda イチヨウウキゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20927；復，古木 no. 21649.

ツノゴケ綱

ツノゴケ科

Anthoceros macounii M. Howe コツノゴケ

秋に水を落とした水田に生育していた。千葉県からは3番目の産地である。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20932.

Phaeoceros calorinianus (Michx.) Prosk. ニワツノゴケ

庭の裸地に生育していた。

証拠標本：清戸，福祉センター付近，古木 no. 20989.

ツノゴケモドキ科

Notothylas orbicularis (Schwein.) Sull. ツノゴケモドキ

秋に水を落とした水田に生育していた。

証拠標本：平塚，平塚小学校分校付近，古木 no. 20931.

5. 興味深い蘚苔類

(1) 絶滅危惧種

環境省レッドリストにおいて準絶滅危惧種に指定されている種として次の3種を確認した。

Taxiphyllum alternans (Cardot) Z. Iwat. コウライイチゴケ

平塚において、水田脇の湿った土に生育していた。生育状況は比較的良好であった。

Riccia fluitans L. ウキゴケ

平塚において秋に水を落とした水田に生育していたが、極微量である。

Ricciocarpos natans (L.) Corda イチョウウキゴケ

平塚において秋に水を落とした水田に生育していたが、極微量である。春から夏の生育状況の調査が必要であろう。

(2) 稀産種

Leskeella pusilla (Mitt.) Nog. ヒメウスグロゴケ

千葉県内では千葉市の1ヶ所から知られているに過ぎない。

Brachythecium garovaglioides Muel. Hal. ケヒツジゴケ

全国的には普通種であるが、千葉県内ではこれまで房総丘陵でしか確認されていなかった。

Anthoceros macounii M. Howe コツノゴケ

関東平野では稀産種であり、千葉県内では大多喜町と袖ヶ浦市から記録されているに過ぎない(川名・古木1997)。

(3) 外来種

外来種には、外国から白井市に入ってきたと思われる種と、白井市以外から入ってきた種がある。前者は、これまで知られてる分布域から確認されている種である。後者に関しては、確証を得るのは難しいが、生育環境から推察される種である。

Grimmia pilifera P. Beauv. ケギボウシゴケ

火成岩が存在しなければ生育できない可能性が高く、白井市の在来種ではなく、火成岩が持ち込まれた後に生えたコケ植物であろう。

Ptychomitrium linearifolium Reim. ナガバチヂレゴケ

本種もケギボウシゴケと同様の理由により、本来、白井市に生育していたかどうかは疑わしい。

Racomitrium barbulooides Card. コバノスナゴケ

本種もケギボウシゴケなどと同様に白井市に生育していたかどうかは疑わしい。

Racomitrium lanuginosum (Hedw.) Brid. シモフリゴケ

本種は亜高山帯の岩場に生育することが知られているが、稀に低地に生育することがあり、今回発見された生育地における由来が興味深い。火成岩が存在しなければ生育できない可能性が高く、白井市の在来種ではないと思われるが、岩と共に持ち込まれたのか、後から生えてきたのか、興味深い。

Schistidium liliputanum (Muell. Hal.) Deguchi. コメバギボウシゴケ

本種も火成岩が存在しなければ生育できない可能性が高く、白井市の在来種ではないと思われる。

Hedwigia ciliata (Hedw.) P. Beauv. ヒジキゴケ

火成岩が存在しなければ生育できない可能性が高く、庭園が作られた後に定着した外来種であると思われる。

Mannia fragrans (Barbis) Frye & Clark ミヤコゼニゴケ

本種は元来、荒川添いの地域に限られているとされていたが、植木の圃場などにも生育しており、植木の運搬に伴い、分布域を広げたとされている。白井市にも植木と共に運ばれて来た可能性が高い。

Lunularia cruciata (L.) Lindb. ミカヅキゼニゴケ

外国からの外来種として知られており、かつては大都市圏や大きな街道沿いに限られていた。市内では広い範囲に生育している可能性が高い。

Riccia lamellosa Raddi ウロコハタケゴケ

最近、海外から持ち込まれた外来種であるとされており(古木 2000)、今後、白井市において、分布域の広がりに注目すべきであろう。

6. 謝辞

最後に、多くの市民の方々にご理解頂き、十分な調査をすることができた。また、市民調査員の方々には、調査に同行して頂くと共に、有益な情報と標本を提供して頂いた。更に、東邦大学の長谷川雅美教授には現地調査において、多くのご助言を頂いた。ここにお世話になった方々に感謝申し上げます。

7. 引用文献

- 岩月善之助・出口博則・古木達郎. 2001. 日本の野生植物コケ. 355 pp. 平凡社, 東京.
- 川名 興・古木達郎. 1997. 袖ヶ浦市のコケ植物相. In 袖ヶ浦市史基礎資料調査会 (編), 袖ヶ浦市史基礎資料調査報告書11・袖ヶ浦の植物, pp. 52-64. 袖ヶ浦市教育委員会, 袖ヶ浦.
- 古木達郎. 1999. 佐倉市のコケ植物相. In 佐倉市自然環境調査団 (編), 113-120 pp. 佐倉市経済圏境部環境保全課, 佐倉市.
- 古木達郎. 2000. 日本新産 *Riccia lamellosa* Raddi (ウロコハタケゴケ:新称). 蘚苔類研究 7: 314-316.
- 古木達郎. 2002. 千葉県産コケ植物目録, 2002年版. 千葉中央博自然誌研究報告特別号5: 59-77.
- 須賀はる子・中村俊彦・古木達郎. 1996. 千葉市のコケ植物. In 千葉自然環境調査会 (編), 千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告1996, 343-364pp. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉市.